枇杷園句集

後篇

乾

913
イ
3-2-1

愛知県有物品
愛知県文化会館
昭 39.11.25 和
114202
A913
1
3-2-1

朱樹乃翁はもとを慕ひて風月花鳥の星霜移りしはと二十餘年なる
と年春のたゝ免つゝと病床を訪ひ句集後編のあるを示せるに翁その
たゝ病なるまゝ

病舌根をそゝぐと言語心が
ままのせきとゝまるをうゝふ亦ま
よしたの手ゝとゝまゝ就
ゝ利よ探ゝ先見ゆの
句とゝもが考るゝてこのゝし
置ぬまこの類を翁の門人
秋舉七ゝ七日の追福の日
師乃艸稿を携来るを予も

倶ゝをこの利ゝ世ゝ弘
めゝ義ゝとゝこのゝ報予も亦
同ゝ意ゝ考ゝ甚ゝ聊
書ゝてゝこのゝ記とゝ
于時文化九壬申秋
曙葬ゝ筆ゝをゝゝ
青ゝ所　卓池

枇杷園句集後編卷之一

春

元日雪

入るさの影も面よ雪の松

七十の歯をむかへて

月雪花やしふ九てそふの春

贈青阿坊

洛の雙林寺の法師青阿弥を臘月の

丈にすぎぬや二十四日都をたちいでて大和
路に筆をそめしより船出の山ふかん日を
えらびて人ふよしをいたれん發句して見せ
ばやさんといひこしらへるをおもひ出て
寅正月元日試筆

春の泊瀬うてやより船の花の春

梅

ゆの中にうもれぬそ梅の花

俳諧の艸木ものもすさ梅の花
ゆゝ見ん香やいつこ丈艸の系木さま
業後やふたもそっさ孔てらめ孔を

菅神影前詠梅花

天満る香や何ぞ〳〵とうゑの系
月艸庵にて左ふう

心ゑ琵琶湖上より拾ふ

梅う香や明日は新ゑ志賀の山

熱田踏歌

夜ごとにうゑし日ごとに柳をうゑふる郭

題しらず

うゑ柳こゝに一里も植この郭

屋かものつゝみの岸の畠もに

鶯鬼のさゝゐこのつゝみ出る柳の郭

篤

いとやぶうゑうゑにもとるる垣のもち

里ふるもてうゑひすさゝもる木間の郭

箱根山

うゝひすに篠ふきたへて高音うぐ

ゐゝにもさゝるよもにあよ日ふこ交こ度

ぶくゝして鶯竹ふきもつ音れ

題篤水滴

うゝにもさよ百うゝひふうゝ水一斗

暁臺先生一周忌

寛政四年正月廿日暁臺大人うせぬ京都
四條の行願寺大雲院といふあるそこに
葬りたてまつりぬ故郷の國古の門
孔洞仙寺に父母の墓所あり側に大人の
名印ひとつを痙てこのまとに塚を築
せて追慕の紀念とせんとすなり去年その
ころをいとなみたてる日ちこのかしまより中ごろ
おとゝしきはてうもつくり業のこと多うつくるに
何とぞとうもつくりたてまつりしかどもいとまなく
ひとつの日に甚塚に詣てたてまつる草はなに苔
むしかすかにもしるしくに文字もかすかにふるて
はなはだふるくなれる去年のはじめつかの築くるに
しるる日よりはかなくあるべきかはなるべしとて
中ごろ驚かせる事ふ都邊の人にいふ
かなくもたまふとしたおもひをこのそこ
なくなぬ

[illegible]

押

柳青し[illegible]やいく日の[illegible]を引し

一村の川汲よ出る都うの事

若菜

鶏の子は五りつの菜の畠道

春雪

[illegible]芝や[illegible]の[illegible]乃雪

鈴鹿山

雪[illegible]の[illegible]

若艸

つの艸やとりつきて社る庵の鍵

朝の[illegible]誰の子を春の学

瀬戸素剛 雀園記

雀のちいさくなくを聞て素剛耳を

[illegible]すをひやりぬるの[illegible]人の

四の小坂をくだるこし今こゝに年をへる
そ米洗へ小萩つめとゝ[illegible]
あ色しくて檐外ゆ出て花ハやとゝ[illegible]
鶯こ幕とゝ[illegible]
庵の名を雀園とゆへやとて人ゝ[illegible]雀園
とゝ[illegible]

雉

[illegible]月や　塘　ほゝ[illegible]花ハなゝし花[illegible]

雨不[illegible]なし花うこかぬ畠の[illegible]
ふゝ草や雉子のけこむ人乃　家

朧月

[illegible]も花[illegible]月のひゝ[illegible]

出代

出のハゝや[illegible]はの芦を片こ[illegible]

霞

舟　人花ひとゝ立ゝゝ[illegible]

二月

大空の雪のひまなき二月哉

ぬ月や八日の底のちくさ雲

春夜

ものすごく秋ちかき夜の月ほそ

紅梅

紅梅のあるじ猫の伸くへう哉

春雨

春雨や油のちらく宵のやと

帰雁

帰るとて屋根芦乃二葉哉

風月の友を失ふ雲数いくそたくそや

この秋西行上人の胃ふて人を作るのふハいる

ちぶ人をうつるなひ雲ん漢い花さく雪

れ雲く峠て野道の色のくどめく日ち

ものきりふるれふりうくるかぬ

人の骨に芽を出ぬさすらう春風

寄居虫

おうれ来て月を雲居虫のやどり哉

病後二句

手車ふ乗て出るうれしさの月

ひとへ脱ぬ夏 両ちりの衣

寝覺里

春月 袖さ免の里を通り過ル

少年行

さくらの月駒のかしらをならべ行

菜花

ふの花や志賀の山越いく辺里

涅槃

藪寺や蜜のあまるる涅槃像

燕

湯杖ー一ふ出る軒のつばめ

桃

夜ごとのわや桃さく門ろ砂ちり里

壽老讃

何ぞそのよとせを桃の一ときを 戎

上巳

山のあなたの軒ばの少雛の家

送羅城法師松島行脚

笑ちぬくて丈芝坊といふ人ありて今ちせ

年をうみむらしつの尾張の國ふさもとひ来

てことせをうれと交を招ひぬ國ふ帰るる

後ち折ふくこのはしら信る文こふる年あふ、

そぐふ年ぬ花ちを去年の冬ちきふふ消

息しておこの羅法師松島よりこるものん

をしいひこさんぬ子ちとるかれ花たよ

金の鳥をこめ招ま額ろ涙かさかるて思老ち

おとしとと老衰せ少ぶいくち命のうちろ

[illegible]面せんといひおこせるゆゑにさて社をまハさ
さハるるのあきぞえてこそ戻羅法師をこころ
ばかりふ旅立のよそひおもせ〳〵社ぐまは
一日枇杷園の盃をとりてかの社の言葉
を思ひアとたへば
うもれ〳〵不尽ぶるかの二つ身とも
花を拾さくらば外よあるまじく松島の松の
ぶあつ身ゆゑ月雪のくるをかさゆゆゑ
[illegible]の月ふ〳〵て夫芝坊ゆゑ変命をあるとゆ
花
山さくらばかれ不孫抱ゆゑ〳〵ゆゑ
うもつ〳〵てくらアも一つきぬさ久良哉
午窓三回忌
小さくるを抱て父よ〳〵塚のもと
七寺
朝の間やをそうて〳〵ゆゑ寺せ〳〵

さゝぶ曇 晴るゝ雲のあゝひなり

梅間亭

行春や人のさゝやき木間より

長良里

つみもむらひもなかるゝ鵜籠哉

樹下三宿のさゝ家ふたゝびかりふ三昧

閑をむさぼる芭蕉翁の句碑しるひ木

因りむこうふりうゝいさゝや多渡の山踏哉

[illegible]の里ふる入哉

樂出をゝふゆくゝの旅家うた和

ゆいへをくちひる哉しゝといへる

舊翁乃句を自得して

色も香もふゝてをゝ哉眼鼻うる

壹里や哉の名物を嘗うふく

唐殿山

不川や滝をふるゝやなさゝ

花にしたがふになきちる鳥にやどる須
磨の心島にあそひ鳥にあれるともかれに宿
うまれ出る人まちにまちみなの紙ならるの色をと
香をよしなる人の心にあらむうし西上人いせの國
にしふく山といふ所にさすらへてひとりすんでかる
折事をすこしうち旅のちり紙のうこめけとも
さんぬる紫の菴を結びしかたみにあれ
人まちまちしぬるまであれとも文机に肱をもたせて

几月や下ちよきふてそれにみる
更科やしゝひとれち流る田毎にあるらん
石山やしゝ人のころちち湖水にうつりし翁不
破の明石の浦ちみとし住の山あらしし山
あれこそ月花のちる旅思心をとめとすらん
わけるも四時を友とせす光陰は矢のことしゆえ
のあらしぬを月さふるに見よ

永日

屋根艸ふ 鶏のふく日ちかうし

呼子鳥

紫の戸や涼てをるみをゆるとを

得芝の家の側ふ西行堂を

建るをよろこひて

水瓜鄭 世ろ[illegible]のむしを 菴ふ

久米路の橋ちかの虫をうぬ

ちゝ[illegible]てゆけとゝへハ

山ふかゝ戸久米路の橋ちかゝ[illegible]

蛙

棚をしやひよ〳〵艸ろ〳〵 蛙

藁火焚をひよゝ〳〵とゝ[illegible]蛙ふ

笠寺やうたゝ[illegible]衆のぬまむしろ

田螺

[illegible]

小町譜

[illegible]の[illegible]人ゝ付ふゝ[illegible]

暮春

明日[illegible]といふ日も春の名残[illegible]

本居大人弥生の晦日こゝ[illegible]

伊勢の[illegible]へ帰[illegible]を送て

松坂の松[illegible]て春の[illegible]

晦日[illegible]や灯の[illegible]浦乃山

枇杷園句集後編巻之二

夏

卯花

卯の[illegible]抜串[illegible]垣根[illegible]

若葉

柿核の壁[illegible]

子規

[illegible]明[illegible]

[illegible]

木曾川

川舩やあらくなるほどなる

酔歩

やとなるまぶりをを阿弥陀笠

鶯亭訪々[illegible]

氣[illegible]さよかとなる宵の[illegible]

無常菩提の種をうゑる[illegible]江口の遊女

草の[illegible]ひ吊ひ[illegible]る岳輅羅城少汝[illegible]

三法師を[illegible]

世をいとふ[illegible]江口の[illegible]

一雙青眼見山見海

耳[illegible]

竹子

竹子やまる四丈尺[illegible]

伊勢の神宮小詣[illegible]

世竹里棠子おくる歌

真丸子神馬の肥る四月の末

こがらしに黄子敷屋に萠黄唯そのかゝらぬをよしといへば帰る法師泪をたゝひぬ法師名ハ芸門信州諏訪の人俳諧子拾ひ〳〵手ゝ松把園子宿をそのかゝかせ〳〵法師おう〳〵ハかゝてやまけふ

いけ丸てゝ坂屋に萠黄月歌うゝ

閑呼鳥

ほとゝぎす出ぬ系ハ多

友子〳〵ゝ打うゝ

鹿のものゝて食うゝ

百合

百合の香の衣をゝ見て山路の雨

蕊中将實方々の墓にて枯野おもゝ

うき寝ふそ見えと西行の旅ら所一芭を
みちはくの仮宮一東ふ岩よりて葦平
結ばておくる所なる

夏草やあさむなうさうはもの紀弐

夏草

夏草や一際ひろて何系松

蚊

蚊ならや酔人の足ア新日さし

瀬戸山ア在て三時既ふして帰路ふ一く
雷雨ア月雨のうちふ雲ア山川乃水ア
前後をさむ行先の川ゝ只二ア流ふ所ア
かゝりして矢田川を乃ア夕陽ア
照して中野薫ゝ多ア

茨の花ゝうゝ胡てふ のいのち源

苔花

何ゝ日を や志ゝ一ゝ流を苔の花

其原より

[illegible]

尾張[illegible]出し秋[illegible]

越のふるを見[illegible]て月の有[illegible]

樽さして高丘の菊[illegible]

大雪ふる[illegible]心を高く

[illegible]枇杷園の美[illegible]

いひふ[illegible]

岩の[illegible]

競馬

[illegible]玉[illegible]競馬[illegible]

田植

ぬか星の數を田[illegible]の宵[illegible]

[illegible]

日比桃原の温泉[illegible]

端午[illegible]硯の[illegible]菰粽をやと

[illegible]て山川氏より[illegible]を場入り
人[illegible]
[illegible]を

日の和やわやめ[illegible]を繋の[illegible]
六日榊原より[illegible]へ出る間渓路曲り水
聲人[illegible]を奪てゆ[illegible]
岩根ふ立て
撫子[illegible]息吹[illegible]る而間う[illegible]

張良瀬
而[illegible]奇[illegible]橋の上
長野峠
紫陽[illegible]日の入る伊賀の境式
猿蓑塚
一[illegible]や五月の雨[illegible]中
陽炎高[illegible]佛のう[illegible]岩屋[illegible]
大[illegible]不動尊を彫附[illegible]繩を

もらせるへ[illegible]ささ[illegible]れさえ降そひて[illegible]
[illegible]まさ[illegible]てえさせ[illegible]

郭公ふ〳〵やふ動の作ものかた〳〵

夏野

牛馬不一一為れる夏野うの角

若竹

桑不酔て[illegible]の年蔵の掃除そふ

餞巣居

去年の夏別一人のふとれ夏帰来て
[illegible]ふ[illegible]の[illegible]れんとす[illegible]いつまの夏の
相見んや水の月鏡のうけもうつ[illegible]
又あふ[illegible]悲一[illegible]れハ[illegible]の
一夜ちゑ金ふ[illegible]と数[illegible]て

あ[illegible]ふたと[illegible]ハ夏れ月

水鶏

西瓜や水鶏帰来のうものこ

峰やゝ水 絡尺を言ひもつ日と

五月雨

さゝ〻れ石南天の実おちるこゝ〻の数

五月雨や 新よ里ゑるあやめ艸

照射

折角と消ゝ義照射とは里ゑ

鵜飼

おゝ〻なの鵜舩石のゝ義煙ゑ

かゝ里消てゆゆ鵜のゆそゝゆ

寛政戊午六月九日の日義濃路を経て

木曾ふ入ぬ志ゝを言ゑ籠ゝいふ其由〻先を

妻籠ゝふゝいへいゝ〻ゆゆけりおゆえて

ゆもゝゆそ行ゝて木曾の山坂ゝいふゝい

つこふゝと住ふ人ふゝとひよ孔ハ只陽ゝもゝふ

里てゝゝすゝいふゆの中ふ老ゝるゝいふゆ

東〻戊あゝるゆゝそゝいへゝゝいふ遥ゆゝし

向ふ石坂路を旅人の行き下るを見ふ
西葛の葉のちひろ〳〵やふひるがへ
るゝやうなるまゝの出て引ゝ返せしを
人は樹もなくなるものゝ我ゆきしこゝ所を
りも社いとんなそしきまこと畠に立る
者とゝゝ藁の筆の形〳〵るものゝふ火をつけ
てゝそ烟ゝてゝゝを腰ふさけゝゝ伺とと
ふふ此とゝ虫ゝ蚋の多〳〵出てさ〳〵ゝ

あゝ〳〵まるほゝふゝ社をふせ〳〵ゝゝ
なるまゝいふおをやゝて足をゝ手をもけ
おゝまる徒者のゆ〳〵のひけゝゝみをゝも
まてさ〳〵ゝひまゝゝて人ゝゝふゝ
めをおへを

蚋 拂ふ木曾の山坂のゝ雨ゝ

蟬

壁 石まてゝ家をゝ為ゝ〳〵蟬の奏

一睡夢裏精神千里をさす

孫くまなしや明石ふる蚤須广の蠅

目さめぬるかハ

いんきんの蠅も行くも蚊の夕

芒桟

ひとりもこ孫起きもあるもの成孫菓とゝいふ梅乃

白ひ芳しもと黄昏の反魂香あるもと花の

おとゝくゝも咲出るかのゝとゝくゝひあるる

を孫菓とゝんて慶つるおきた人青ゝ〳〵先

生とあゝ名ゝ夏ゝ枝繁ゝ打このゝ名ゝてゝヨを

透ゝて暑を凌ゝふ便りゝ秋ゝ名のおお

きハ黄繁ゝ色しゝ冬ゝ雪の綿ゝ光

ゝゝ枯ゝ枝を爪打て粥を煮る只ゝ行一

樹ゝ孫生をゝしゝふ枇杷園ゝ此亭へ

つゝ数変芒生ひ五月雨さへ降をひて足ゝ

ふゝ止ゝ〳〵乃ゝ乃ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ

あやしの板橋やうて芭の桟とゝつけられた
行路難のわつらひもなくて時しら雨しとおもへる
ものゝ着ふ人句ふくはつるまへこの頃ふる雨て
樗守て昼も敢風つゝきもれうふ

納涼

きしのうちんもれ風の軒を歩行音
漁火をうそへて嬢の寝覚の船
棋老の門ゆゝ小船をうゝて

這ふ蟹の横ゝ舟やるきゝみうふ
水もうゝれぬり静ゆうふくもれ小茶を
たのしきうふるものゝ命ふのし
静ゆれゝ涼しゝ味もきゝれゝ

對和樂

暑ゝ気しゝ夏をゝへ行をしむゝ老れ
うへふのゝいひ合ゝふゝ中ふ硯押
出し句を俗るあゝれゝや人をのしゝや

[illegible]と酒小銭二文ひねり出し枯魚
一[illegible]入ぬ

[illegible]

蓮

蓮の香や人も[illegible]ぬ苔の庵
素堂不言や蓮ゑ痴人を賜まる

清水

清水汲て小木曽の蠅をはらひけり

桂五亭夕貞見

夕涼やまゝ〳〵ゝ〳〵ゝ[illegible]の反

夕立

申ふゝもゝ黒ほの柑ふなこゝし
夕〳〵もゝ[illegible]賣ゝ[illegible]膳所町
西[illegible]墨ぬゝ[illegible]ゝ[illegible]を[illegible]國のゝ
ゝゝ伯母のゝゝ餅と乾夕立の来ぬ[illegible]
ゝゝゝゝゝゝ

西行

得鏡一字

妹ちのまに影をあらためむとうつしみる

沸被

男ふさはるる芦をもあらてはは被この男

藤園堂
450

愛知県
1103269193